

PRESS  
RELEASE

2019年4月  
報道関係各位  
プレスリリース



香雪美術館 コレクション展  
「羅漢さん 仏教を護る聖者たち」

2019年5月18日（土）～7月15日（月・祝）

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。当館では、所蔵品を「コレクション展」として公開するとともに、春と秋に日本美術などの作品を紹介する「企画展」を開催しています。

2019年の第1回目のコレクション展は「羅漢さん 仏教を護る聖者たち」と題して、村山龍平が収集したコレクションの中から「羅漢」に焦点をあて紹介します。羅漢とは、仏教の開祖である釈迦の入滅後、仏教を護り、人々を救う聖者のことです。彼らを描いた羅漢図を中心に、関係する作品を含め約50点を展示します。

香雪美術館 コレクション展

「羅漢さん 仏教を護る聖者たち」

羅漢は、正しくは「阿羅漢」といい、修行によって最高段階に達し、悟りを開いた人のことを指します。仏教の開祖である釈迦の教えを護り、未来へと伝える役割を担っているとされます。この信仰がインドから中国に伝来すると、羅漢たちは釈迦の入滅後に、正しい教えを護りながら人々を救う存在となりました。日本には8世紀に伝わり、鎌倉時代以降に彫刻・絵画が盛んにつくられ、信仰されました。この春に中之島香雪美術館で紹介する京都・高山寺を開山した鎌倉時代の僧・明恵（1173～1232）も、関係する書物を著したり、複数の羅漢図を所持したりと、釈迦追慕の念から羅漢を崇拜しました。

本展では、村山龍平のコレクションの中から、羅漢図を中心に、関連作品や羅漢を供養、讃嘆する場面に描かれた工芸品なども展示します。



※期間中、一部展示替があります。

会 期	2019年5月18日(土)～7月15日(月・祝) 月曜休館(ただし、7/15は開館) 前期：5月18日(土)～6月16日(日) 後期：6月18日(火)～7月15日(月・祝)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般700(550)円、高大生450(350)円、中学生以下無料 *( )内は20名以上の団体料金
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社



みどころ

村山コレクションの「羅漢図」を一堂に

村山龍平は、大正3年（1913）に仏教美術を特集した豪華図録『玄庵鑑賞』を刊行しました。「玄庵」は村山の雅号

です。ここに収録された「十六羅漢図」B本㊦㊧は、宝積寺伝来とされ、もっとも日本で流布した羅漢図の図像を継承した作品です。今回初めて16幅をまとめて展示します。

「十六羅漢図」A本㊨㊩は、中国・南宋時代の作品から図様が転用されていますが、独自のアレンジを加えた部分も多く、羅漢図の展開を考える上で重要な作例です。今回初めて公開します。



㊦「十六羅漢図」B本のうち 尊者2  
(江戸時代、18～19世紀)



㊧「十六羅漢図」B本のうち 尊者14  
(江戸時代、18～19世紀)



㊨「十六羅漢図」A本のうち 尊者3  
(南北朝～室町時代、14世紀)



㊩「十六羅漢図」A本のうち 尊者12  
(南北朝～室町時代、14世紀)



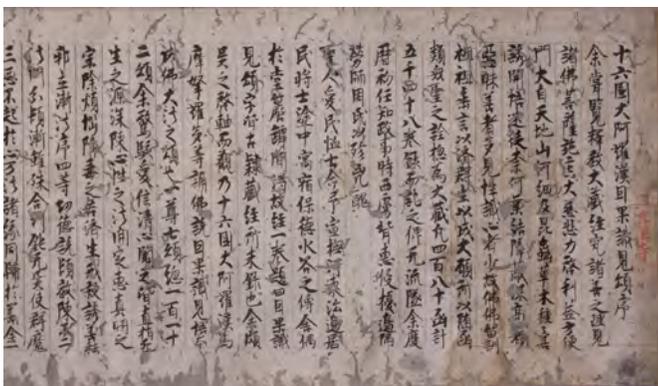
㉔ 「羅漢図」(室町時代、16世紀)



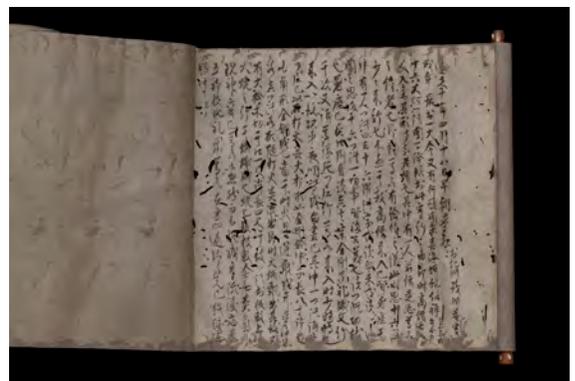
㉕ 「法華経 巻第4」(平安～鎌倉時代、12～13世紀)

## 明恵も憧れた羅漢さん

京都・高山寺の開基で、華嚴宗中興の祖とされる明恵（1174～1232）は、いくつかの十六羅漢図を所持し、『十六羅漢講式』という羅漢を讃嘆する文章を制作しています。『十六国大阿羅漢因果識見頌』㉔は、明恵が建久10年（1199）に高山寺で書写したものです。その巻末裏面に貼られた『夢記』断簡㉕は、明恵が建久10年4月18日に和歌山の歓喜寺で見た夢の記録です。弟子らとともにいる所へ十六羅漢うちの数名が出現し、火炎を起こして忽然と消えました。明恵は涙が溢れ出すほどの感動を味わったと記しています。「羅漢図」㉔は明恵が所持していた羅漢図の図様に近いと推測される作品です。1幅しか現存を確認できませんが、もとは16幅ないし18幅あったと考えられます。今回初公開の作品です。



㉔ 明恵「十六国大阿羅漢因果識見頌」  
(鎌倉時代 建久10年 [1199]) 個人蔵  
会期中巻き替えあり



㉕ 明恵「夢記 断簡」  
(鎌倉時代 建久10年 [1199]) 個人蔵  
【後期】6月18日(土)～7月15日(月・祝日)

## 羅漢を供養する、讃嘆する

羅漢図では、羅漢は「五鈷杵」<sup>ごこしよ</sup> ㊦などの密教法具や、如意・払子<sup>にょい ほっす</sup>といったものを持っています。また、脇に経典やそれを納める経箱が置かれていたりします。「蓮池蒔絵経箱」<sup>れんちまきえきょうばこ</sup> ㊧は、蓮の花が咲き乱れる情景を金蒔絵で華麗に表現した経箱です。

さらに、侍者や虎、獅子などが果実や宝珠、花などを捧げて、あるいは香炉を焚いて供養する場面が描かれます。「青磁鳳凰耳杓立」<sup>せいじほうおうみみしゃくたて</sup> ㊨は茶の湯で柄杓を立てる道具として伝わっていますが、本来は花瓶として制作された可能性があります。このような青磁の花瓶に蓮華や牡丹が生けられた場面が見られます。香は「堆朱山水人物図香合」<sup>ついしゅさんすいじんぶつずこうごう</sup> ㊩のような小形の蓋物に納められ、香炉で焚かれている様子が描かれています。

本展では、羅漢を供養する、讃嘆する場面に登場する工芸品を紹介します。



㊦「五鈷杵」(平安時代、12世紀)



㊧「蓮池蒔絵経箱」(桃山時代、16世紀)



㊩「山水人物図堆朱香合」(中国・明時代、14~15世紀)



㊨ 龍泉窯「青磁鳳凰耳杓立」(中国・明時代、15世紀)

## 主な出展作品

番号	作者・生産地	作品名	時代	所蔵	展示期間
A		じゅうろくらかんず 十六羅漢図B本のうち 尊者3	江戸時代、18～19世紀		全期間
B		じゅうろくらかんず 十六羅漢図B本のうち 尊者14	江戸時代、18～19世紀		全期間
C		じゅうろくらかんず 十六羅漢図A本のうち 尊者3	南北朝～室町時代、14世紀		全期間
D		じゅうろくらかんず 十六羅漢図A本のうち 尊者12	南北朝～室町時代、14世紀		全期間
E		らかんず 羅漢図	室町時代、16世紀		全期間
F		ほけまょう まぎだい 法華経 巻第4	平安～鎌倉時代、12～13世紀		全期間
G	明恵	じゅうろくくくくだい 十六国大阿羅漢因果識見頌	鎌倉時代、建久10年（1199）	個人蔵	前・後期で巻き替え
H	明恵	ゆめのき だんかん 夢記 断簡	鎌倉時代、建久10年（1199）	個人蔵	後期：6月18日～7月15日
I		ごこしよ 五銚杵	平安時代、12世紀		全期間
J		れんちまゑまよぼうこ 蓮池蒔絵経箱	桃山時代、16世紀		全期間
K		さんずいじんぶつづ 山水人物図堆朱香合	中国・明時代、14～15世紀		全期間
L	龍泉窯	せいじほうおうみしやくたて 青磁鳳凰耳杓立	中国・明時代、15世紀		全期間

※記号欄（A～L）は貸出写真記号

※所蔵に標記のない作品は全て村山コレクションです。

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「香雪美術館」羅漢展係

TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

FAX: 078-841-1402

取材・写真使用申込書



(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他( )	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください

作 品 画 像	ロ グ 画 像
---------	---------

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。  
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に香雪美術館広報担当宛に確認のためお送り  
くださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「香雪美術館」 羅漢展係 担当：郷司（ごうじ）  
TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402  
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目-12-1